

今月のコラム

ジュニパーベリーとスワッグ

(株)グリーンプラザ 石川 昇

ご存知の方も多いと思いますが、ジュニパーベリーは、ヒノキ科の植物で、洋酒のジンの香り付けとしても有名です。ヨーロッパでは、古くから魔除けの樹として用いられ、中世には伝染病の予防としても利用されたそうです。効能は多く、体を温め、冷えと湿気を取り除き、冷えが影響する腰痛、関節炎、リウマチの痛みなどにも効果があり、水分のバランスを整えるので、肥満、むくみ、動脈硬化などにも効くと言われています。

また、肌にも良くニキビの予防、皮膚の炎症を抑える効果も報告されています。つまり、抗菌、浄血、解毒、悪性物質の排出、免疫向上、抗肥満作用などがある薬用植物で、これほど多様に効能がある植物も少ないでしょう。

洋酒のジンは、大麦、ライ麦、ジャガイモなどが原料の蒸留酒で、ジュニパーベリーの上に流し香り付けされます。日本では酒税法上の分類はスピリッツです。

ブルーのボトルの、「ボンベイサファイア」は、ボトル脇に、原料に使用された10種の薬用植物や産地が明記されています。当然ジュニパーベリーは、一番上に書かれています。また、オーガニックのジュニパーベリーが10倍使われている、「セクレッドジン」は、ジュニパーベリーのクセのあるヤニの香りが強く広がります。私が愛する酒で、ロックで楽しく飲んで、ほろ酔いで寝る今日この頃であります。

ジュニパーベリーは、エジプトのツタンカーメンの墓からも出土しており、古代から魔除け、けもの除けとして、ヨーロッパでは、スワッグにしてドアに吊るして、お守り用の魔除けに飾られており、欧米で生活する人たちは十分に認知しています。

ジュニパーベリーは、西洋ネズの木で別名ネズミサシ、そして盆栽の杜松(トショウ)です。東北地方以南に自生しており、あまり一般に活用されていない樹木です。

最近は、クリスマスの円形のリースは人気落ち、手軽にできる壁掛け、ドア飾りのスワッグが人気です。ジュニパーベリーのスワッグは目に留まります。クリスマスの注目商品のひとつになるでしょう。ブルーベリーなどのアントシアニン含有植物や、緑茶のカテキン効果は広く知れ渡っており、これからは、ジュニパーベリーが話題になりそうです。



▲ブルーのボトルの、「ボンベイサファイア」



▲ジュニパーベリーのワイルドな香りがクセになる、愛する酒、「セクレッドジン」



▲ジュニパーベリーなど厳選された10種類の薬用植物の個々の魅力を最大限に引き出す独自の製法



▲セクレッドジンは、オーガニックのジュニパーベリーの量を10倍使用



活動報告

「花と緑のまちづくり推進フォーラム」開催報告

9月9日に、認定NPO日本都市計画家協会主催の、全国まちづくり会議（都市計画などを行う大規模な活動）の一環として、全国首長会（市長村）、市民ボランティア団体、ガーデンを考える会（企業）が三位一体で取り組む組織として、シンポジウムを開催しました。発起人、参加者など、花と緑のまちづくり活動について講演をし、最後に、「花と緑のまちづくり福岡宣言」を採択しました。

●開会

●基調講演 「花と緑のまちづくり～コミュニティガーデン～」

1. 八木 波奈子氏（ガーデニング誌『BISES』元編集長）

●自治体トップから「花と緑のまちづくり」施策とは？

2. 亀岡市長 桂川 孝裕氏（京都府）
3. 盛岡市都市整備部長 船水 義一氏（岩手県）

●「花と緑のまちづくり」先進地 北海道・恵庭市の取り組み紹介

4. 内倉 真裕美氏（ブレインズ代表）

●「花と緑のまちづくり」福岡の取り組み紹介

5. 上原 真之氏（福岡市役所）一人一花の取り組み紹介
6. 石井 康子氏（福岡市緑のコーディネーター）活動紹介
7. 古荘 浩士氏（福岡市緑のコーディネーター）花と子どもたちが主役の活動紹介

●宣言文読み上げ

8. 「花と緑のまちづくり・福岡宣言」宣言文読み上げ（首長の会）
9. 「花と緑のまちづくり・福岡宣言」宣言文読み上げ（JSURP主催者）

●総評

10. 八木波奈子氏

●閉会

●午後からは、大名フォーラムを開催し、「花と緑のまちづくり・福岡宣言」を受けて、参加者も交わり、今後の取り組みや課題、期待される効果などについて、忌憚のない話し合いをしました。

今後、ガーデンを考える会は、エクステリア、園芸の両面から、技術や資材提供など側面的に市民活動を応援することを目的とし、活動体制の構築準備を進めていきます。



活動報告

●基調講演

「花と緑のまちづくり～コミュニティガーデン～」

八木 波奈子 (ガーデニング誌『BISES』元編集長)

その1

新潟県見附市、人口4万人の小さな街に、「みつけイングリッシュガーデン」をつくる。隣接地には、「見附テクノガーデンシティ」と銘打った商業団地50社の誘致に成功し、税収基盤ができあがる。イングリッシュガーデンホテルレアートの誘致にも成功し、現在も出張、結婚式の需要が続く。中心のガーデンは、もともと農家の主婦たちなど市民ボランティアが、開園2年前からトレーニングを積んで、今では全てのメンテを、プライドを持って楽しく行っている。ガーデンを目指して歩く、家から出よう運動も喚起。ガーデンを目指す、市内循環バス(無料)もつくった。

市長：久住時男氏、

ガーデン指導：ケイ山田氏



左側に行政が誘致した産業団地、奥にホテルが見える。

街に、学校に、花がいっぱい



学校や商店街に花苗が供給され、美観が生まれる

その2

東京武蔵野市の空き家対策、「テンミリオンハウス」が実に面白い！

デイサービスではない、元気な高齢者の素敵な居場所づくり。別棟では、共働き家庭の児童を預かっている。特徴は、プロのガーデニングリーダーを中心に、近隣住民や、ここに通う人たちと庭づくりをしている。ガーデニング施設付きが豊かさの鍵となっている。

その2 東京都武蔵野市
空き家対策テンミリオンハウス



※テンミリオンとは、年間の運営資金1000万円を上限として市が負担する。

東京武蔵野市のテンミリオンハウス。住人の高齢者が亡くなり、市に寄付された約100坪の一軒家を市がリフォームして、近隣の元気な高齢者が歩いて通える、気軽に文化的なくつろぎ場。様々な講座もあり、椅子に座ってやるヨガ教室も人気。

近隣住民やここに通う人たちと庭づくりをしている。

※コミュニティガーデンの活用について、興味深い事例を多数紹介していただきました。続きは、グリーン情報1月号に掲載予定です。



活動報告

●自治体トップから「花と緑のまちづくり」施策とは？

亀岡市長 桂川 孝裕氏（京都府）

【要旨】

- ・京都の亀岡市は、JR京都駅から車で20分。人口は約9万人
- ・教員から市役所の職員になってから、緑化協会という新しい団体が立ち上がった時に、出向して、花と緑のまちづくりに特化していきました。花のネットワークをつくったことで市議会議員になり、府議会議員を経て、今から3年前に市長に当選。
出身が岐阜県で、地元にご縁がなかったが、花と緑のまちづくりを続けてくことによって、花コミュニケーションによる、人との出会いによって築られました。
- ・どこの市町村も、花や緑を進めるのは大変難しい時代になっています。少子化、高齢化の時代の中で、子供たちの環境、虐待や保育の問題、高齢者の方々の取り組みなど、切実な課題がたくさんあって、花と緑のことを少し言いにくい環境になっています。
しかしながら、花と緑は、今の社会でいえば、ヒートアイランド現象で今年の夏も暑かったが、緑を増やすことは、より環境にやさしく気温を下げる効果がありました。
住民の方が幸せを実感して、その地域で暮らしていく中で、自然の豊かさ、身近な自然とのかかわり、美しい風景をより一層実感できるほうが、その地域に住んで幸せだなと感じることができます。
- ・市長になって、亀岡ガーデンミュージアム構想を立ち上げました。花と緑を基準にしながら、市民がより誇れる街にするための、一つの指針として、庭だけではなく、博物館のような歴史や文化を持つ街にすることです。
- ・亀岡駅北から歩いてすぐの、大変便利な場所が、水害によって開発されてきませんでした。この、亀岡市が保有している14ヘクタールの土地を、これからグリーンインフラとして、整備をしていきます。自然豊かなビオトープを含めて、水害の際は、水が溜まって水害を緩和します。平常時は、水は少ないですが、水生植物があり、市民がその周りをまわられるような、環境づくりをしながら市民で守っていくように、繋げていきたいと考えています。
- ・行政として、花や緑に少しでも、お金を投資していけるような環境づくりを考えています。故郷やその地域の魅力をより高めるための、花や緑の戦略的な計画があるだろうと考えています。少しでも盛り上げていくために、花と緑のまちづくりの全国首長会（市町村長会）を作って、事例と研修を重ねながら、魅力ある街を見て、少しでも参考にして取り組みに繋げてけたらいいなと思って、まちづくりフォーラムを通じて、呼びかけをしています。
- ・今、日本の中でも、花や緑を大切に街づくりをしている市町村を、結集しながら、輪を広げていながら、花と緑というものが、現代社会にとって、とても大事なんだ、そこには、人との関わりやコミュニティーガーデン、やはり自然との繋がりというものが、これからの故郷、郷土をつくるのに大変重要なんだということを、もっと認識を深めるようになればありがたいです。



亀岡市長 桂川氏



カエデ
kaede

ガーデンを考える会セミナー

みどりと花で地域、街を変えていく
美しい街づくりのために、業界を乗り越えた交流、
コラボを進めましょう

建築・まちづくりプロデューサー
株式会社チームネット代表取締役
甲斐 徹郎氏

開催日時 2018年12月5日(水)(受付13時～)

会場 ユニマツトリック本社会議室

住所 東京都港区南青山2-13-10 ユニマツトアネックスビル7F

◆東京メトロ銀座線「外苑前駅」4A出口より徒歩3分

◆東京メトロ半蔵門線、都営地下鉄大江戸線「青山一丁目駅」5番出口より徒歩5分

受講料 3,000円(会員は無料)

①講演会 13時30分～15時00分

②意見交換会 15時10分～15時40分

③ガーデンを考える会の方向性について「花と緑のまちづくり」の説明会 15時40分～16時10分

●懇親会 16時30～18時00分 会費4,500円

会場 周富徳の店「広東名菜 富徳」

東京都港区北青山2-3-1 青山C.I.プラザB1

●甲斐徹郎プロフィール

～森をつくる住まいづくり「住まい」から「まち」へ
「都市」から「森」へ～

甲斐 徹郎(かい てつろう) 建築・まちづくりプロデューサー
株式会社チームネット 代表取締役
<http://www.teamnet.co.jp/>



1959年東京都生まれ。千葉大学文学部行動科学科(社会学専攻)卒業。

1995年、環境共生型の住まいと街を創造し普及させるコンサルティング会社として、株式会社チームネットを設立。独自の「つながり」理論をもとに多くの環境共生プロジェクトを手がける。

1996年より「エコロジー住宅市民学校」を開校し、一般市民を対象に環境共生手法の普及啓発活動を続け、個人住宅における環境共生の実現にも取り組んでいる。

また、「個」と「個」の関係性を連鎖させることによる、緑豊かな街づくりを実現するために、民有地の緑化を推進する(公財)東京都公園協会「まちなか緑化事業」では、緑化支援プログラムの構築を支援し、モデル事業を推進している。

著書 「不動産の価値はコミュニティで決まる」(学芸出版社)

「森をつくる住まいづくり」(世田谷区都市整備公社)

「まちに森をつくって住む」(農文協)

「自分のためのエコロジー」(筑摩書房)

「まちへ 都市・景観を考える」(共著/日刊建設通信新聞社) 他多数